

令和7（2025）年度

東京大学大学院工学系研究科

システム創成学専攻

専攻入試案内書

2025 Guide to Entrance Examinations
Master's/Doctoral Program
Department of Systems Innovation

Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

修士課程
博士後期課程

問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院工学系研究科
システム創成学専攻事務室（工学部3号館2階225号室）
電話（03）5841-6533、Email: admission@sys.t.u-tokyo.ac.jp
お問い合わせフォーム：<http://www.sys.t.u-tokyo.ac.jp/contact/>

専攻ホームページ <http://www.sys.t.u-tokyo.ac.jp>

**令和7(2025)年度
東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻
修士課程 入試案内**

この案内書は令和7(2025)年度東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項を補足するものである。

今年度は書類選考、システム創成学関連科目（専門科目）、口述試験を実施する。受験方法の詳細は決まり次第、システム創成学専攻ホームページ（<http://www.sys.t.u-tokyo.ac.jp>）等で通知する。

1. 入学試験

(1) 試験科目および日程

日 程	科 目・試 験 時 間	備 考
8月26日（月） ～ 8月30日（金）	9：00～19：00（注1） ・システム創成学関連科目（専門科目） ・口述試験	書類選考合格者（注2）が対象

（注1）試験時間は変更される可能性がある。

（注2）書類選考を通過した者（書類選考合格者）のみが、システム創成学関連科目（専門学術）および口述試験を受験することができる。

（注3）試験科目の内容などの詳細は、4月26日（金）および5月25日（土）に実施する入試説明会で説明し、また5月18日（土）までに本専攻ホームページに掲載するので参照のこと。入試説明会の案内は本専攻ホームページに掲載する。

(2) 試験方法

- （イ）書類選考：志望動機・希望研究内容書（下記2.（2））・専門課題（下記2.（3））を重視し、学部等の成績を参考にして書類選考を実施する。書類選考の結果は8月22日（木）までに、本専攻ホームページ等で通知する。書類選考を通過した者（書類選考合格者）のみがシステム創成学関連科目および一般口述試験を受験することができ、その他の者は不合格となる。
- （ロ）英語試験：TOEFL iBT®（Home Editionを含む）®の公式スコアの提出により英語能力の評価を行う。TOEFL公式スコアの提出方法については、必ず「令和7(2025)年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語試験（英語）TOEFL スコアの提出について（修士課程・博士課程【出願日程A・B】）」を参照すること。また、本専攻では、公式スコアはTest Date Scoresのみを利用し、MyBest Scoresは利用しない。以下、1.（3）注意事項(二)も参照のこと。
- （ハ）システム創成学関連科目（専門科目）：事前に与えられた専門課題に対する回答書を提出し、その内容についてオンラインで専門試験を行なう。受験方法や試験時間、注意事項の詳細は、7月下旬までに本専攻ホームページ等で通知する。
- （ニ）口述試験：オンラインで実施する。受験方法や試験時間、注意事項の詳細は、8月23日（金）までに本専攻ホームページ等で通知する。

(3) 注意事項

- （イ）書類選考で不合格となった場合も、検定料は返金しない。
- （ロ）オンラインでの試験のために、安定で良好なインターネット環境に接続された、PC（webカメラおよびマイク付き）を用意すること。
- （ハ）書類選考・システム創成学関連科目（専門科目）・口述試験に関する具体的な注意事項は、別途本専攻ホームページ等で指示するので参照すること。また4月26日（金）および5月25日（土）に入試説明会を実施する。入試説明会の案内は本専攻ホームページに掲載する。
- （ニ）TOEFL公式スコアの提出期限は8月7日（水）（必着）とする。例年、期限に間に合わない者がいるので、早めに受験してスコアを提出すること。
- （ホ）試験に関係したURLやパスワード等を他に漏らさないこと。試験の内容等をインターネット

上に掲載しないこと。試験官から指示がある場合を除き、試験中の撮影・録画・録音は禁止する。

2. 提出書類

東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項第6項の提出書類に加えて、以下の書類3種を提出すること。

- (1) 「志望指導教員の申告票」。本専攻ホームページに掲載されるWebサイトから志望指導教員を申告すること。（提出締め切り：6月10日(月)）
- (2) 「志望動機・希望研究内容書」。本専攻と上記の志望指導教員を志望した動機、および本専攻に進学したときに希望する研究の内容を日本語または英語で具体的に記述すること。本専攻ホームページからダウンロードした様式を使用し作成すること。（提出締め切り：7月中旬～8月上旬を予定。詳細は専攻ホームページにて通知する）
- (3) 「専門課題解答書」。7月下旬から8月上旬頃に受験生に通知される専門課題に解答すること。回答には本専攻ホームページからダウンロードした様式を使用すること。（提出締め切り：8月中旬を予定。詳細は専攻ホームページにて通知する。）

書類提出方法：本専攻ホームページ等で通知する。

3. その他

- (1) 令和6(2024)年10月の入学を認める場合がある。10月入学のための資格等の詳細は、令和7(2025)年度東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項第1項の出願資格を確認すること。
- (2) 外国籍の志願者の在留資格申請は、入学許可通知後でなければ手続きが始められず、手続きには通常1ヶ月以上かかる。在留資格を新規に申請する場合、入学許可通知後に申請手続きが開始となり、入学日に間に合わない。新たに在留資格申請が必要な外国籍の志願者については「4月入学」の選択を検討すること。
- (3) 出願日程Bによる試験は予定していないが、状況により実施することもある。
- (4) その他詳細については、システム創成学専攻事務室に問い合わせること。

以上

**令和7(2025)年度
東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻
博士後期課程（出願日程A）入試案内**

この案内書は令和7(2025)年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項を補足するものである。

今年度は書類選考、システム創成学関連科目（専門学術）、口述試験を実施する。受験方法の詳細は決まり次第、システム創成学専攻ホームページ（<http://www.sys.t.u-tokyo.ac.jp>）等で通知する。

1. 第1次試験

(1) 試験科目および日程

日 程	科 目・試 験 時 間	備 考
8月26日（月） ～ 8月30日（金）	9：00～19：00（注1） ・システム創成学関連科目（専門学術） ・口述試験	書類選考合格者（注2）が 対象

（注1）試験時間は変更される可能性がある。

（注2）書類選考を通過した者（書類選考合格者）のみが、システム創成学関連科目（専門学術）および口述試験を受験することができる。

（注3）試験科目の内容などの詳細は、4月26日（金）および5月25日（土）に実施する入試説明会で説明し、また5月18日（土）までに本専攻ホームページに掲載するので参照のこと。入試説明会の案内は本専攻ホームページに掲載する。

(2) 試験方法

（イ）書類選考：提出書類（下記2.（2）（3）（4）または（5））および学部・大学院等の成績にもとづき、書類選考を実施する。書類選考の結果は8月22日（木）までに、本専攻ホームページ等で通知する。書類選考を通過した者（書類選考合格者）のみがシステム創成学関連科目（専門学術）および口述試験を受験することができ、その他の者は不合格となる。

（ロ）英語試験：TOEFL iBT®（Home Editionを含む）の公式スコアの提出により英語能力の評価を行う。TOEFL公式スコアの提出方法については、必ず「令和7(2025)年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語試験（英語）TOEFL スコアの提出について（修士課程・博士課程【出願日程A・B】）」を参照すること。また、本専攻では、公式スコアはTest Date Scoresのみを利用し、MyBest Scoresは利用しない。以下、1.（3）注意事項（ニ）も参照のこと。

注）本学の修士または専門職の学位を授与された者、または学位を得る見込みの者に対しては、英語試験を省略する（TOEFL公式スコアの提出を不要とする）。

（ハ）システム創成学関連科目（専門学術）：事前に与えられた専門課題に対する回答書を提出し、その内容についてオンラインで専門試験を行なう。受験方法や試験時間、注意事項の詳細は、7月下旬までに本専攻ホームページ等で通知する。

注）本学工学系研究科の修士または専門職の学位を得た者、または学位を得る見込みの者に対しては、システム創成学関連科目（専門学術）を省略する。本学新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科および学際情報学府において修士または専門職の学位を得た者、または学位を得る見込みの者についても、同様に当該試験を省略する。

（ニ）口述試験：オンラインで実施する。受験方法や試験時間、注意事項の詳細は、8月23日（金）までに本専攻ホームページ等で通知する。

(3) 注意事項

- (イ) 書類選考で不合格となった場合も、検定料は返金しない。
- (ロ) オンラインでの試験のために、安定で良好なインターネット環境に接続されたPC (webカメラおよびマイク付き) を用意すること。
- (ハ) 書類審査・システム創成学関連科目(専門学術)・口述試験に関する具体的な注意事項は、別途本専攻ホームページ等で指示するので参照すること。また4月26日(金)および5月25日(土)に入試説明会を実施する。入試説明会の案内は本専攻ホームページに掲載する。
- (ニ) TOEFL公式スコアの提出期限は8月7日(水)(必着)とする。例年、期限に間に合わない者がいるので、早めに受験してスコアを提出すること。
- (ホ) 試験に関係したURLやパスワード等を他に漏らさないこと。試験の内容等をインターネット上に掲載しないこと。試験官から特別に指示がある場合を除き、試験中の撮影・録画・録音は禁止する。
- (ヘ) 出願の前に志望指導教員と必ず連絡を取ること。

(4) 口述試験について

- (イ) 口述試験は修士論文の研究、修士論文として予定している研究、または修士論文に相当する研究、ならびに博士課程での研究構想について発表を行い、専門分野の学術知識、博士課程への準備状況、研究遂行能力等につき試問するものである。
- (ロ) 受験者は、オンラインで受験者自身のPCの画面共有をすることで口頭発表資料(PowerPoint、Keynote、PDFファイル等)を提示し、上記1.(4)(イ)の発表を行う。
- (ハ) 10月入学希望者、既に修士または専門職の学位を有する者(令和6(2024)年9月末日までに取得見込みの者を含む)については、今回の口述試験が第2次試験を兼ねる。

2. 提出書類

東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項第7項の提出書類に加えて、以下の書類を指定された期日までに提出すること。なお、これらの書類の作成にあたっては、志望指導教員と十分に相談すること。

- (1) 「志望指導教員の申告票」。本専攻ホームページに掲載されるWebサイトから志望指導教員を申告すること。(提出締め切り：6月10日(月))
- (2) 「専門課題解答書」。7月下旬から8月上旬頃に受験生に通知される専門課題に解答すること。本専攻ホームページからダウンロードした様式を使用し作成すること。ただし本解答書はシステム創成学関連科目(専門学術)に関する提出物であり、上記1.(2)(ハ)注)に該当する者は免除される。(提出締め切り：8月中旬を予定している。詳細は専攻ホームページにて通知する)
- (3) 口述試験で使用する口頭発表資料のPDFファイル(書類選考合格者のみ提出)(実際に口述試験で使用するファイル形式に関わらず、提出するファイルはPDF形式に変換して提出すること)(提出締め切り：8月24日(土))
- (4) 第1次試験のみの対象者(口述試験が第1次試験である者)
(提出締め切り：8月2日(金))
 - ① 現在までの研究概要をまとめた要旨(A4またはUSレター判で4頁) 1部
 - ② 博士論文計画の構想(A4またはUSレター判で1頁程度) 1部
- (5) 第2次試験の対象者(口述試験が第2次試験を兼ねる者)
(提出締め切り：8月2日(金))
 - ① 現在までの研究概要と博士課程での研究構想をまとめた要旨(A4またはUSレター判で6

頁) 1部

- ② 修士論文(またはそれに相当する研究業績を示す資料) 1部
- ③ 研究業績リスト 1部

書類提出先: 本専攻ホームページ等で通知する

注1) 提出する要旨の様式は、各自が所属する学会の講演予稿集の形式に準ずる。

注2) 研究業績は、学会誌研究論文、総説・解説論文、口頭発表、その他の項目に分けて示すこと。

3. 第2次試験

- (1) 第1次試験合格者(ただし1.(4)(ハ)に記載された条件を満たす者を除く)に対しては、第2次試験として、令和7(2025)年1月下旬から2月中旬に口述試験を行う。
- (2) 期日、試問に必要な資料等の詳細は追って通知する。

4. その他

- (1) 令和6(2024)年10月の入学を認める場合がある。10月入学のための資格等の詳細は、令和7(2025)年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項第1項の出願資格を確認すること。
- (2) 外国籍の志願者の在留資格申請は、入学許可通知後でなければ手続きが始められず、手続きには通常1ヶ月以上かかる。在留資格を新規に申請する場合、入学許可通知後に申請手続きが開始となり、入学日に間に合わない。新たに在留資格申請が必要な外国籍の志願者については「4月入学」の選択を検討すること。
- (3) 出願日程Bによる試験は予定していないが、状況により実施することもある。
- (4) その他詳細については、システム創成学専攻事務室に問い合わせること。

以上

システム創成学専攻 指導教員・研究分野一覧 (1/3) ※50音順

教員番号	指導教員	研究分野
1	青山 和浩 教授 (人工物工学研究センター)	システムのデザインとマネジメントに関する研究. 社会システム, 製品システム, サービスシステム, 生産システム, 物流システムなどのシステムを研究対象. システムのデザインにおけるシステムモデリングを研究. システムモデルを利用したシステムマネジメントの手法を研究.
2	和泉 潔 教授	①金融情報学:人工市場シミュレーション, 金融テキストマイニング, 金融への人工知能応用. ②経工連携研究:顧客データ分析, 位置情報データ分析, 購買シミュレーション. 配属希望者は /https://socsim.t.u-tokyo.ac.jp/ を参照すること.
3	大澤 幸生 教授	①サービス, 製造業など各種の市場データ, 自然現象, コミュニケーションログ等のデータからビジネスチャンスを発見するための AI 技術, ②データの結合・利活用のアイデアを生み出すデータ市場を設計し, ③実空間における「にぎわい」のメカニズムの解明と、にぎわいを持つ場の創造そこでビジネスイノベーションを実現する認知・思考・コミュニケーション, 意思決定の技術.
4	岡部 洋二 教授 (生産技術研究所)	複合材料構造を対象とした健全性診断システムに関する研究, 構造ヘルスマonitoring, 非破壊検査技術, 高温特殊環境に適用可能な光ファイバ超音波センサシステム, 超音波ガイド波を用いた内部損傷検出法, レーザー超音波可視化システム, カーボンナノチューブ複合材センサ.
5	加藤 泰浩 教授 (エネルギー・資源 フロンティアセンター)	レアアース・レアメタル資源の成因の解明と探査手法への応用・資源政策の提案, フロンティア(深海底および宇宙)資源の発見, 地球科学データ解析によるグローバル環境変動・物質循環の解明, 地球温暖化メカニズムの解明とグローバル環境対策の立案.
6	川崎 智也 講師	サプライチェーン, エージェントベースシミュレーション, 複雑ネットワーク解析, ロジスティクス・センシング, 交通・物流ビッグデータ解析, グローバル・バリューチェーン, 技術革新とロジスティクス・システム.
7	川畑 友弥 教授	低炭素社会を支えるエネルギーサプライチェーンにおける液化水素・高圧水素・アンモニア輸送・貯槽システムの社会実装研究. 最先端数値シミュレーション技術・実験観察技術を組み合わせた破壊機構解明と材料ナノスケール組織設計.
8	菅野 太郎 准教授	認知システム工学(人間中心のシステムデザイン&マネジメント):チーム協調・組織連携モデリング&シミュレーション, 認知データ分析, 医療・看護・航空・危機対応などにおけるヒューマンファクタ・システムデザインと教育訓練支援, 社会技術システムのレジリエンス評価, 等.
9	北澤 大輔 教授 (生産技術研究所)	海洋の食料生産システム・再生可能エネルギー利用システムと海洋生態系保全. 海面養殖. 波力発電. 海洋空間利用. 環境影響評価. 自然環境・海洋生物・海洋構造物間の相互作用. 海洋生態系モデルによる環境シミュレーション. 柔軟構造物・生物の水槽実験.
10	合田 隆 准教授	数値計算法(確率的アルゴリズム, 特にモンテカルロ法・準モンテカルロ法・マルチレベルモンテカルロ法)の理論と応用, 不確実性定量評価, 大域的感度分析, 意思決定論・情報の価値分析, 機械学習, その他関連する応用数学・統計学.
11	越塚 誠一 教授	流体の粒子法シミュレーション(高精度化, 高速化, 混相流, 表面張力), 人の役に立つシミュレーション(産業利用, 企業との共同研究, 災害シミュレーション, 雨水の浸入, 飛沫の挙動), 物理ベースコンピュータグラフィックス(可視化, リアルタイム, ポジションベース), シミュレーションの信頼性向上.
12	小林 肇 准教授 (エネルギー・資源 フロンティアセンター)	エネルギー・資源のためのフロンティア・バイオテクノロジーの研究:CO ₂ の変換・利用(バイオ無機ハイブリッドシステムを用いた CO ₂ からの有用物質の生産), 地下環境のバイオモニタリング(DNAを指標とした地下における流体挙動のモニタリング, 新規バイオトレーサー技術の開発), バイオ粒子を用いた地質特性の改善
13	柴崎 隆一 准教授	グローバル・ロジスティクス・ネットワーク下のモデリングと政策シミュレーション:地球規模の国際物流シミュレーション, 大規模船舶動静データに基づく国際物流予測, 国際貿易と物流の連続モデルなど. モデルを活用した世界各国のロジスティクス施策/インフラ政策の分析シミュレーション.
14	柴田 和也 准教授	数値シミュレーションによる現象解明とデザインの最適化, シミュレーションを活用した新たなシステムの開発, 船舶と海洋構造物に加わる流体力に関する数値シミュレーション, 沿岸域の津波シミュレーション, 防災・減災のための工学, 安全性の評価手法の開発, 粒子法.
15	柴沼 一樹 准教授	破壊/損傷の革新的モデル化理論の構築:破壊現象の究明と応用展開, 経年劣化の高精度予測手法とメンテナンス理論, マルチスケールを統合する新しい物理モデル理論, 橋梁・自動車・船舶・飛行体などあらゆる構造物へ適用可能な普遍的な安全評価理論体系の確立.
16	島田 尚 准教授	生物や生態系, 社会・経済系などを対象とした統計物理学, 非線形科学. 特に, ①構成要素の生成・消滅があるような開放系の普遍な性質, 特に頑健性についての理論研究 ②生物・経済・社会における集団現象のシミュレーション ③生物系や社会経済系の動態の実データ解析.
17	鈴木 克幸 教授	構造力学・計算力学を用いた複合領域システムの最適設計, トポロジー最適化, 形状最適化による新しい構造形態の創出. 安全で効率的な運用のための船舶の最適設計, 風力アシスト船舶の最適設計. (米倉一男講師と共同で指導を行う)

システム創成学専攻 指導教員・研究分野一覧 (2/3) ※50音順

教員番号	指導教員	研究分野
18	高橋 淳 教授	低炭素社会実現に向けた先進 CFRP 技術 (超軽量ビークルや超巨大浮体式洋上風車の構造最適化シミュレーション等), 新サービスのための革新シミュレーション技術 (モンテカルロ法によるデジタルマルチ品質保証等), LCA, リサイクル. (万燭講師と共同で指導を行う)
19	高谷 雄太郎 准教授	持続可能な社会実現に向けた資源・廃棄物処理技術の確立. E-waste からの有価金属選択抽出技術やリサイクルの最適プロセス設計. 海底鉱物資源の選鉱・製錬技術. コンクリート廃材・鉄鋼スラグなどの廃棄物やケイ酸塩鉱物を用いた二酸化炭素固定化技術.
20	辻 健 教授	CCS や資源エネルギーに向けた探査・モニタリング技術. 地震・火山の構造や動態を捉える探査技術. 月や火星での探査. デジタル化された岩石モデルに対して数値シミュレーションを適用し地盤内部で生じるダイナミクスをモデリング. 機械学習と大規模地震計ネットワークを用いて社会活動や車両のモニタリング.
21	所 千晴 教授	高度資源循環を達成するための分離濃縮技術・プロセス開発, それを支える環境修復技術・プロセス開発, 社会システム・政策提案. 特に, 物理・化学融合型の新規分離濃縮技術・プロセス提案, 固固および固液分離機構解明のための高度固体分析およびシミュレーション技術開発.
22	ドドビバ・ジョルジ 准教授	素材プロセッシング工学における分離・回収技術の開発について, ①金属鉱物資源の選鉱・製錬技術 (有価鉱物と脈石鉱物の単体分離) のリサイクリングにおける分離技術へ応用. ②吸着剤の製造, 界面化学を応用した水質浄化・有価鉱物回収技術の開発. ③LCA によるリサイクリング技術の環境評価.
23	鳥海 不二夫 教授	計算社会科学 (大規模社会データ分析, 社会シミュレーション) と人工知能技術の社会応用. ソーシャルメディア, WEB サービス, ニュースメディア, 移動・観光情報等を対象とし, 機械学習, 複雑ネットワーク, 自然言語処理, ゲーム理論, エージェントベースシミュレーション等の技術を用いる.
24	中尾 彰宏 教授	次世代サイバーインフラ技術 (5G/Beyond5G) を駆使する DX (デジタルトランスフォーメーション). 大容量・低遅延・多数接続通信. 低消費電力化と安全性・信頼性の飛躍的向上. 機械学習・AI による障害予測・自動修復, 宇宙・海洋 (未開拓領域) への拡張性. 地域課題解決や新たな価値創造による産業振興・経済発展を推進.
25	中村 謙太郎 教授	①海底鉱物資源の効率的な探査手法の開発, ②高精度かつ簡便なレアメタル分析法の開発, ③様々な鉱物資源の生成機構とその背景となる地質現象の解明, ④鉱物資源を手掛かりとした, 地球表層環境と生命進化の歴史の解読.
26	羽柴 公博 准教授	資源イノベーションエンジニアリング: 採鉱システムの高度化 (開発機械の性能向上, 高速掘進, 海底鉱物資源の開発), 資源開発における不確実性リスクの低減, 地下構造物の長期利用技術の開発 (岩盤物性評価, 長期挙動評価), ジオメカニカルモデリングとシミュレーション.
27	早矢仕 晃章 講師	①データエコシステムのダイナミクスと制度設計: データエコシステム, 異分野データ交換・協創, データ市場シミュレーション, 創造的コミュニケーション, 複雑ネットワーク. ②未観測事象のデータ化支援技術の開発: データデザイン, 知識構造化, 未踏データ, 集合知, ヒューマンインタフェース.
28	福井 勝則 教授	安心安全な社会を目指した資源開発システム (海底鉱物資源の開発など) の創成と環境保全, 地下空間工学, 岩盤工学 (数値モデリング・計算), 開発・建設機械の高効率化 (大規模施工データの解析).
29	藤井 秀樹 准教授	マルチエージェントシステムやセルオートマトン等を活用した社会システムシミュレーションの研究開発とバーチャル社会実験 (特に微視的交通流・群衆シミュレーション). シミュレーションにもとづく実社会システムの意思決定支援.
30	宝谷 英貴 講師	海洋における波浪現象の理解とその海洋工学的応用: 海洋波, 非線形波動, フリーク波, 波浪に対する浮体 (船舶・海洋構造物) の応答, 流力弾性応答, 浮体応答極値の確率的推定, 船舶・海洋構造物の波浪中応答に関する水槽実験とその技術革新.
31	宮本 英昭 教授	①最新の科学的知見に基づく宇宙資源の研究, ②MMX (火星衛星サンプルリターン計画), LUPEX (月極域探査), TSUKIMI (月資源探査) 等の太陽系探査計画の推進と関連した探査データの解析, ③惑星地下探査技術の開発, ④ミュージアムを利用した学術普及活動と大型プロジェクトの合意形成論
32	村上 進亮 教授 (技術経営戦略学専攻)	資源経済学・産業エコロジー (MFA/MSA): 持続可能な資源利用, サーキュラーエコノミーの社会実装に関連する社会システム (ビジネスモデル, 消費者行動, 制度など) の設計と評価, 天然資源開発の環境影響評価, 鉱物市場の分析など. 分析ツールはデータ分析とシミュレーションの双方を含む
33	安川 和孝 准教授 (エネルギー・資源 フロンティアセンター)	①化学分析等による海底鉱物資源の実態の解明, ②多変量統計解析による海底鉱物資源の起源の解明, ③統計解析・数理モデルに基づく気候変動メカニズムや資源生成過程の解明. 地球表層の物質循環に着目し, 地球システムを理解することで資源・環境問題に取り組む.

システム創成学専攻 指導教員・研究分野一覧 (3/3) ※50音順

教員番号	指導教員	研究分野
34	山田 知典 准教授	安全・安心に資する計算力学シミュレーション, 先端計算機資源(世界最高水準のスーパーコンピュータ「富岳」等)上でのハイパフォーマンスコンピューティング, 大規模シミュレーションと機械学習技術の融合, マルチフィジックスシミュレーション
35	米倉 一男 講師	機械学習を製品設計に応用するデータ駆動型設計, 物理モデルと機械学習を融合させた高精度な推論手法の研究. ユーザーや社会への説明性を踏まえた機械学習の産業応用. 数理最適化を用いた構造や流路等の最適設計. (鈴木克幸教授と共同で指導を行う)
36	渡邊 正峰 准教授	人工意識の研究開発」による意識の神経メカニズムの解明。第一に、大規模の人工スパイクニューラルネットワークを対象に、生体脳と見紛うような機能と動態を学習によって獲得させ、第二に、生体脳と相互作用させることで、そこに宿ったかもしれない意識を検証する。
37	万 燿 講師	未来社会のための先進複合材料(自動運転 EV, 超大型風車等), 材料力学と最新技術の融合による先進複合材料の総合的・包括的な研究, 材料特性のバラツキの科学(統計的な手法を用いて先進複合材料の社会実装のためのバラツキ予測と制御). (高橋淳教授と共同で指導を行う)

令和7(2025)年度
東京大学大学院工学系研究科 システム創成学専攻
専攻入試案内書

問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院工学系研究科
システム創成学専攻事務室（工学部3号館2階225号室）
電話 (03) 5841-6533、Email: admission@sys.t.u-tokyo.ac.jp
お問い合わせ：<http://www.sys.t.u-tokyo.ac.jp/contact/>

専攻ホームページ <http://www.sys.t.u-tokyo.ac.jp>